

## 事業の背景・目的

- ・徳島県では、H22年に徳島市、H28年には鳴門市・藍住町の町境でアルゼンチンアリの生息が確認された。両地域では継続してきた防除の効果が認められるが、根絶には至らずR3年には新たに3地域（徳島市加茂名・多家良、鳴門市板東）での生息が確認
- ・5つの地域は土地利用やアリの生息状況等が異なり、地域の実情に応じた防除計画の策定と実施が課題
- ・被害低減と生息拡大の防止のため、これまで実施してきた防除活動の知見を活かしつつ、各地域の実情に応じた防除と普及啓発活動を実施

## 事業の内容

- ・アルゼンチンアリが生息する5つの地域において、行政・団体・企業などが連携し、それぞれの地域に応じた防除計画の策定及び防除体制を構築
- ・ベイト剤と液剤を使用した化学的防除を中心とし、トラップや目視による定期的な生息調査により効果検証しつつ防除を実施
- ・住民による主体的な防除・アルゼンチンアリからの自衛を促すとともに、人・物の移動に伴うアルゼンチンアリの移動を防止する普及啓発を実施

### 事業① 調査事業

アルゼンチンアリの生息状況確認及び防除活動による効果検証のため、目視及び捕獲トラップによる生息調査を行い、防除効果を検証した。

### 事業② 防除事業

地域住民や地元企業との連携により、ベイト剤と液剤を併用した化学的防除を実施した。（対象5地区、R4年4月-R5年3月の間で計70回の防除活動を実施）  
地区ごとの異なる生息状況や土地利用に合わせ、地域の実情に応じた手法で防除を行った。

### 事業③ 普及啓発事業

HPでの住民への注意喚起  
住民へのチラシ配付等により、防除方法を普及して防除への協力を得た。

## 得られた成果

令和3年度に新たに生息が確認され、高い密度でアルゼンチンアリが生息していた地区（徳島市多家良地区、徳島市加茂名地区、鳴門市板東地区）において、生息確認当初と比べ、生息密度を大幅に減らす事に成功した。

従来より生息が確認されていた2地区（徳島津田地区、鳴門・藍住地区）においても、生息域の拡大防止や低密度での抑え込みに成功している。

地域住民からも「家の中へのアリの侵入がなくなった」「アリを見かけなくなった」との声を頂いているところ。

また、地元住民団体との連携体制を構築し、住民の協力のもとで防除を実施してきたことで、地域の中で主体的にアルゼンチンアリを防除する意識の醸成やノウハウの構築が進んだ。